

「図書館システムの機能と要件」、「図書館システム要件定義の実際」

2006年7月18日(火)

研修の概要

東京都立図書館 吉田直樹

1 事前の提出物

下記 および の質問・回答表は、日本図書館協会のホームページからダウンロードすること。 の一部の質問への回答、および については各々指示された範囲の自由書式で提出する。

日図協ホームページ

受講者のプロフィール

図書館での経験や情報処理関係の経験・使用環境などについて、質問に対する回答を提出する。提出時期は即時(この書類を受け取ってから1週間以内)で、提出先はこの案内の最後にある。ダウンロードした Excel ファイルを添付して送付する。この回答は他の受講者には公開しない。

所属先のシステムの概要

A4判質問用紙1枚の分量の質問(ただし回答はおおむねA4判3~4枚に相当する分量)に対して回答を、5月31日を締め切りとして提出する。ダウンロードした Excel ファイルおよびその他の回答ファイルを添付して送付する。

6月中旬には全員に全員分を事前配布する予定。

次期システム要件定義

システム担当者として「次期システムの要件を検討する立場になった」と仮定して、システムの要件と思われる事項(本講義においては「システム要件定義」は「システム仕様書」の概要とする)を記述し提出する。A4判用紙5枚という分量を目安に、Word もしくは PowerPoint のファイルで、6月30日を締め切りとして提出する。7月初旬には全員に全員分を事前配布する予定。ただし、想定外に受講者が多いときは、選択した事例を配布することにとどめる場合がある。

目的

「受講者のプロフィール」は討議グループ組み分けの参考に用いる。「システムの概要」は、グループ組み分けの参考に用いるほか、各々のシステム的な背景を理解し合い、自分が使用していないシステムを広く参考にして要件定義の作業を行ったり討議したりするために用いる。「要件定義」は、討議素材および事後の提出物のたたき台として用いるが、各受講者の考えをこの課題に向けてもらう意味が大きい。

2 7月18日当日午前(講義と討議)

(1) 講義

講師の側からの講義とする。内容については、次のようなものを考えている。

図書館システム選定の手順

図書館システムの現在の到達点

図書館システムの主要な要件

(2) 討議

4～5人ずつのグループに分かれ（組み分けは講師）、講師が指定した事例を材料に要件定義を検討する。

3 当日午後（討議と発表）

(1) 午前の討議続き

(2) 発表

各グループから検討した定義の骨子もしくは特に発表したい項目について15分程度で発表する。各グループの発表とも、他グループによる質問、意見などを述べる時間を取る。この組み分けや時間設定は受講者数により変更がある。

4 事後の提出物

次期システム要件定義

事前に提出した各自の要件定義を研修当日の講義・討議を参考に修正補強して再提出する。分量はA4版で10枚程度を目安とする。提出期限は9月30日とするが、講師よりさらに手を入れるべき箇所等を指示して再度の提出を求める場合もある。この提出期限は個別に連絡する。この提出物は他の受講者には公開しない。

5 持参資料

「所属先のシステムの概要」全員分

「次期システム要件定義」全員分

各々の項目に書いたように事前に電子形態で配布するが、研修当日は討議中に参照する便宜のために各自プリントアウトして持参すること。（ノートパソコンを持参する場合はプリントアウトをもたなくて良い。）

6 配布資料（7月18日当日）

講師レジュメ（パワーポイント出力）

参考資料、事前購読資料はとくにないが、他の受講者のシステム概要、要件定義には目を通して来ること。

7 連絡方法

上記提出物および講師との連絡はすべてメールにて行う。

講師のメールアドレス：

提出物が多くて大変ですが、こうした作業の全体がこの講義を構成しています。他の講義の準備等もあるでしょうし、提出期限直前にまとめるのは困難な内容と分量ですので、直ちに取り掛かって下さることを期待します。7月18日当日は通信教育の登校日といった感じで捉えていただければと思います。よろしくご協力をお願いいたします。